日本精神保健社会学会　2021年8月1日
THE JAPAN ASSOCIATION OF
MENTAL HEALTH SOCIOLOGY
＜日本学術会議協力学術研究団体 No.1001＞
ニュースレター第72号
発行人:宗像恒次　編集人:山本美奈子
事務局: 東京都豊島区西池袋 2-39-8
ローズベイ池袋ビル3階 東京メンタルヘルス内
日本精神保健社会学会事務局: 担当/村上
TEL : 03-3986-3220/ FAX 03-3986-3240
E-mail:murakami@t-mental.co.jp

第27回 日本精神保健社会学会学術大会に向けて

第27回 学術大会実行委員長
東京情報大学総合情報学部准教授
山口豊

会員の皆さまには、日頃より、お世話になりありがとうございます。大会実行委員長として、一言ご挨拶申し上げます。

今回の大会テーマは、「コロナ禍のストレスを乗り越えるレジリエンスの課題－個人の課題と社会の課題－」です。このことは、新型コロナウィルス感染恐怖によるストレスとその対処という意義が浮かび上がってくると同時に、今回のパンデミック報道やワクチン接種推奨報道による同調圧力の問題も浮かび上がってきます。

というのは、まず第1にパンデミックの根拠となる感染者数についてですが、PCR検査自体が感染者を特定するものではないこと、コロナを原因とする死者数の把握があまりにずさんなことがあります。

第2には、ワクチンですが、通常ワクチン完成には5．6年かかるといわれます。ところが、今回のmRNAワクチンは、わずか1年足らずで作成され、いまだ完成せず、治験中（臨床実験中）であり、遺伝子ワクチン導入自体が人類初の試みであるということです。当然、接種直後の高熱や倦怠感、アナフィラキシーショックばかりではなく、中長期的な影響が未知数です。

第3には、マスク着用やソーシャルディスタンスですが、このことは対策であると同時

に、私たちのコミュニケーションの親密性を低下させてしまいます。脳内視床下部から放出される愛情ホルモンといわれる「オキシトシン」は、人との愛情深い触れ合いの中で多く分泌され、ストレス低減には大きな力となります。ウィスコンシン医科大学名誉教授でもあり、統合医療クリニックの院長である高橋徳先生によれば、ソーシャルディスタンスではオキシトシンが得られにくくなり、私たちのメンタルヘルスにマイナスに働くと警告しています。コロナ禍の社会において、若者の自殺やうつ病患者の数が気になります。

第４には、社会の様子ですが、ワクチン接種に関しての同調圧力の広がりが気になります。本来、接種は自由意思に基づくものですが、いつのまにか同調圧力の拡張によって、接種を希望していない人までが､接種せざるを得ないと感じるのではないかと危惧します。このことは､本人のメンタルヘルスに悪影響があるばかりではなく､社会がいつのまにか、ファシズム的になり､自由と民主主義がないがしろにされないかと不安となります｡今日、保健医療の世界では、患者がセカンドオピニオンをうけることやインフォームドコンセントを取ることは当たり前です。ワクチン接種が自由意思に基づかないならば、言語道断でしょう。

以上のようなことを考えると、コロナ禍におけるストレスをどう乗り切ればいいのか、真剣に考えざるを得ません。本大会において、英知が現れることを期待します。会員の皆さまの積極的参加を期待いたします。どうぞ、よろしくお願いいたします。

第 27 回 日本精神保健社会学会学術大会・総会のお知らせ（第１報）

今年度の学術大会・総会は、新型コロナウィルス感染症（COVID-19)の終息が見通せない状況から、昨年度に引き続きオンラインでの開催となります。研究発表もオンラインでの発表になります。

●開催日時：2021 年 11 月 23 日（火）祝日、10 時 00～17 時 00 分

●大会テーマ： コロナ禍のストレスを乗り越えるレジリエンスの課題

－個人の課題と社会の課題－

①基調講演　宗像 恒次 学会長

②シンポジスト

○福田 陽明 氏

（都立松沢病院 精神科医）

○藤田 愛 氏

（北須磨訪問看護・リハビリセンター 所長）

●ツ ー ル：ビデオ会議システム（Zoom）を用いて開催

●参加申込：学会事務局にメール（本ニュースレター 1ページ右上に記載）にて、**氏名、メールアドレス、電話番号を記載**のうえ、お申込ください。

●参加費：一般 3,000 円、学生 2,000 円

●参加振込み：**2021 年 11 月 12 日（金）**までにお振込みください。

振込名には、個人名および「参加費」とご記載ください。振込み確認後、学術大会・総会前日までに、招待メールをお送りします。運営の都合上、当日での参加はできませんので、ご理解、ご協力をお願い致します。

●振込み先：ゆうちょ銀行　加入者名　日本精神保健社会学会　00170-6－613036

2021 年度「学会奨励賞」募集のお知らせ

今年度も「学会奨励賞」を募集いたします。エントリーを希望される方は、本学会ホームページの「日本精神保健社会学会奨励賞内規」の選考基準を充たしているかご確認のうえ、学会事務局にお問い合わせ下さい。ご希望の方に必要書類をお送りしますので、書類作成のうえ、9月末日までにご応募ください。

★研究発表の募集★

1．発表の申込み

発表希望者は、演題名と代表者名、連絡先（電話およびメールアドレス）を記載のうえ、**10 月 5 日（火）**までにお申込みください。

2．申込み方法

学会事務局にメールにてお申込みください（本ニュースレター 1ページ右上に記載）。

3．抄録

学会事務局から受理の連絡後、抄録を記載し学会事務局へメールにて添付し、ご送付ください。

抄録は、本学会の定型「実践報告型」、「科学研究型」のいずれかにて、A4、1 枚を記載して頂きます。定型フォーマットは、受理の際に発表代表者にお送りします。提出期限は、**10 月 23 日（土）**とします。なお、オンラインでの発表者は 6 名になります。発表者が多数の場合は、査読の結果、抄録発表のみになる場合があります。

4．発表要件

1）学会費の納付

発表者全員が本学会の会員であること。また、2020 年度の年会費（2020 年 10 月 1 日～2021 年 9 月 30 日）と 2021 年度の年会費（2021 年 10 月 1 日～）の納付済みであることを要件とします。

2）研究発表の参加費

研究発表の参加費は、別途 2,000 円が必要となります。振り込みは、**11 月 12 日（金）**までにお願い致します。

3）振込み先

ゆうちょ銀行　加入者名　日本精神保健社会学会　00170-6－613036

振込名には、個人名および「研究発表」とご記載ください。

機関誌「メンタルヘルスの社会学 Vol.27」の原稿募集

年報編集委員会では、会員の皆様からの原著論文を募集しております。また、総説、研究報告、実践報告、短報、研究ノート、資料等もお待ちしております。論文の書式は年報の執筆要項をご覧ください。なお、タイトル、抄録の英文についてはネイティブチェック(専門校閲)を必ず受けるようにしてください。

1. 原稿締切：2021 年 8 月 20 日（金）※締め切りを延長しました!

多くの方の投稿をお待ちしています。

2. 送付方法および送付先

＊郵送のみの受付となります。

詳細は、本学会ホームページの投稿規定をご確認ください。

会費納入のお願い

本学会の活動は、会員の皆様の会費によって支えらえています。2020 年度の年会費は、2020 年 10 月 1 日から 2021 年 9 月 30 日の期間です。また、2021 年度の年会費は、2021 年 10 月 1 日から 2022 年 9 月 30 日の期間です。2020 年度の年会費納入がまだの方は、速やかに納入くださいますようお願いします。会費、振込み先は以下の通りです。

会費　通常会員　5,000 円　　学生会員　3,000 円

振込み先　ゆうちょ銀行　加入者名　日本精神保健社会学会　00170-6－613036

なお、前年度の未納分を併せてお振り込み頂く場合、本年度会費に未納会費を加えた金額を記入の上、通信欄に「〇〇年度分と 2 年分」とご記入下さい。その他ご不明な点がございましたら、学会事務局にお問い合わせ下さい。

理事の現場から –長期化するコロナ禍での雑感–

○ 畠中宗一

（関西福祉科学大学教授・大阪市立大学名誉教授）

古希を迎え、そろそろ退会を考えていた所に、NL の原稿依頼があった。恐らく NL での最後のメッセージを予感し、引き受けることにした。コロナ禍の日常が 1 年以上続き、しかも終息の兆しが見えない生活にうんざりしながら、ひたすら忍耐している。この状況への認識は様々であろうが、これが地球規模での拡散であることを考えると、われわれのこれまでのライフスタイルを根本的に見直す必要があるのではないか。地質学の用語に「人新世」がある。これは、経済活動を含む人間の諸活動が地球環境に負荷をかけるということが指標になった概念である。この概念に倣えば、地球環境問題は、人間の諸活動が地球に負荷をかけ続けた累積結果として、地球の生態系としての循環が機能不全に至り、結果として気候変動や温暖化が促進され、各種の地球環境問題が生起するに至ったと解することができる。ミクロからマクロまでの相互作用で生態系が維持されてきたが、それが機能しなくなった。今回のコロナ禍も、氷のなかに封じ込められていたウィルスが、温暖化により氷から溶け出した結果と解すれば、今度とも未知のウィルスに遭遇する可能性は高い。

われわれは、共生を人間のレベルで使用することが多いが、地球環境問題という認識からすると、人間以外の動物や植物、さらには細菌やウィルスとの共生という認識も必要かもしれない。われわれは、生き物を殺生して生き残る。生態系の循環と言う視点に立てば、この殺生は少ない方が良い。資本主義社会では、多くの食べ物が廃棄されている。他方で、飢えに苦しむ人々が存在する。ここでも共生のための循環は機能していない。

本学会は、メンタルヘルスをキーワードに、共生のためのメッセージを一貫して提起してきた。「経済成長主義」の結果、様々なメンタルヘルスの問題が浮上してきた。コロナ禍をきっかけに、地球環境における生態系の循環が機能不全に陥ったという認識を加えることで、より俯瞰的な議論の可能性があるのではないか。すなわち、このような認識を背後に持って考えることとそのような認識を持たないことでは、その展開に大きな違いが出てくるように想像する。

昨年 10 月作家・精神科医の帚木蓬生氏のインタビューを行った。「共感、そして正しいことをしていれば、貧しくても良い人生を送れる」というメッセージが語られた。この 3 月には、『沙林－偽りの王国―』が新潮社から発行された。帚木氏からの絵葉書には、「紙

碑」ということばが使われていた。この作品は、サリン事件の犠牲者や治療に携わった医療関係者へのレクイエムである。その意味で、「紙碑」は、的確な表現である。同時に、ネガティブ・ケイパビリティという概念を再々発見した帚木氏のメンタリティとも親和性の高い作品である。（詳細は、機関誌『ひと・健康・未来』27 号を参照されたい。公益財団法人ひと・健康・未来研究財団 HP からダウンロードできます。）また今年の 3 月には、未来研究会特別座談会「コロナ後の世界を生きるための手がかりを求めて」を企画した。こちらは、内容もさることながら、問いを出し応答する。さらに応答されたことに応答していくという作法によって、車座になった参加者が、物語の創造にコミットメントしていく。この問いと応答のリズムが、心地よく感じられた。詳細は、機関誌『ひと・健康・未来』28 号（2021 年 7 月発行予定）を参照されたい。これまでインタビューでは、多様な分野で活躍する方々に「次世代へのメッセージ」をキーワードにしてきたが、さらに「未来への挑戦」あるいは「未来を拓く」をキーワードに若手のインタビューを交差させながら、さらなる機関誌の進化を志向していきたいと思っている。

私の現場は、院生の博論指導がメインですが、インタビューや機関誌の編集にシフトしつつあります。昨年 3 月、編著『共に生きるための人間関係学―「自立」と「つながり」のあり方ー』を金剛出版から刊行しました。ご批判ください。

若い世代が本学会を牽引し、より広い視野でのメンタルヘルスの展開を期待しています。

日本精神保健社会学会入会のご案内

1. 主旨

今日ほど、社会諸科学がその社会的責任を果たすことを必要とされている時代はないでしょう。とりわけメンタルヘルスの問題は、慢性化する内戦や犯罪に始まり、薬物依存、弱者虐待、閉じこもり、抑うつ、仕事中毒、セックス中毒など、国も内外に山積しています。

これまで産業社会を支えてきた近代科学技術は、感情を極力排し、事柄のみに基づいて判断し、評価する秩序を作り、豊かな物の生産と消費の基盤を発展させてきました。しかし、そうした感情を排する秩序を徹底して作れば作るほど、人と人との共感する心は失われるのです。そして、「自分の持つ本当の感情は何か」を見失い、無気力に閉じこもったり、あるいは食、セックス、地位などの快感を求めることに逃避したり、弱い立場にある者を差別し、様々なかたちの暴力を加えるのです。ところが、これらの問題は、これまでの各ローカル社会における従来の秩序のあり方では、解決できなくなってきています。

そこで私達は、自分や相手の本当の感情を見いだし、共感しあうメンタルヘルスを求めています。そして、それを個人にとどまらず、集団、社会に、さらには文化として表現する具体的かつ実践的な対応策を導き出すためには、精神保健社会学の理論と方法論とが必要であります。

学会長には情動認知行動療法研究所の宗像恒次氏が選出され、理事達の顔ぶれも社会学、心理学、保健学、社会福祉学、精神医学、公衆衛生学と多岐に渡っています。様々な分野の方々が、入会下さるよう期待しています。

2. 指針

①メンタルヘルスの背景となる社会・文化的構造と変動を、社会学的な視点から研究をすすめて、世論の形成に寄与し、社会的貢献を果たす。

②大会やイベントにワークショップ形式を導入し、学会の運営に会員が積極的に参画する。

③国際的にも仲間づくりをすすめていく。

④建前を排し、本音で語り合える仲間や研究グループを形成する。

⑤社会学を専攻する学生達に、夢を与えるような仕事をする。

⑥大会やイベントごとに論文や本などをまとめて出版し、成果を社会に還元して行く。

3. 入会申し込み方法

送付先：〒171-0021　東京都豊島区西池袋 2-39-8 ローズベイ池袋ビル 3 階 東京メンタルヘルス内
日本精神保健社会学会事務局　担当：村上
TEL: 03－3986－3220　FAX: 03－3986－3240　E-mail: **murakami@t-mental.co.jp**

入会金：5,000 円

会　費：通常会員 5,000 円、学生会員 3,000 円、賛助会員一口 10,000 円（一口以上）、機関会員 20,000 円

送金先：郵便振替 00170-6-613036　　加入者名:日本精神保健社会学会

※　E-mail、FAX、郵送にてお申込ください。承認後、振込み手続き等をご送付します。

日本精神保健社会学会入会申込書

フリガナ 氏　名		生年月日	西暦　　年　　月　　日　　歳 （ 男 ・ 女 ）
会員種類	通常会員・学生会員・賛助会員・機関会員　を希望する	連絡先	所属・自宅　を希望する
所属名 及び住所	〒 TEL.　　FAX.　　E-mail.		
自宅住所	〒 TEL.　　FAX.　　E-mail.		
所 属 系 （○印）	社会学･文化人類学･経済学･哲学･心理学･社会福祉学･教育学･看護学・医学･保健学･栄養学･体育学･地理学 行政学･政治学･その他（　　）		
関心領域			